

■特集

人工知能学会共同企画— 人工知能とは何か？

編集にあたって

栗原 聡 (前)人工知能学会誌編集長／電気通信大学大学院情報理工学研究所／人工知能先端研究センター)

山川 宏 (人工知能学会誌編集長／(株)ドワンゴ ドワンゴ人工知能研究所)

長野 徹 (情報処理学会誌編集委員／日本アイ・ビー・エム(株) 東京基礎研究所)

坊農真弓 (人工知能学会誌・情報処理学会誌編集委員／国立情報学研究所)

最近では、お互いの所属学会が異なる複数研究会での共催イベントなどは珍しくない。筆者の一人である栗原も、毎年3月に本会「知能システム研究会」、人工知能学会「知識ベースシステム研究会」「社会におけるAI研究会」「データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会」、そして電子情報通信学会「人工知能と知識処理研究会」の5つの研究会による合同研究会を開催しており、2017年からは本会からもう1つの研究会が合流することになっている。お互いに類似する研究テーマを扱う研究会同士であってもそれぞれの研究会コミュニティに所属する研究者は重複も多いものの異なっており、一堂に介しての研究会は議論が盛り上がり、新しい研究者ネットワークが構築されるなどのメリットもあり、毎年規模が拡大している。

しかし、異なる学会の学会誌同士の共同企画というのは恐らく初の試みではないだろうか。今回、人工知能学会に研究活動の軸足を置いている筆者(栗原)として、情報処理学会学会誌(以下、本誌)との共同企画にかかわることができたことは感慨深い。本誌編集委員会にて人工知能学会学会誌との共同企画案が立ち上がり、当時人工知能学会編集長であった筆者(栗原)に打診があり、人工知能学会編集委員会に

て議論し、ぜひ連携しようということになった。この共同企画のきっかけは当然ではあるが、昨今の人工知能ブームである。今回のブームは研究サイドよりも、実用サイドの方が盛り上がっている。その主役は深層学習法であり、日々新しい技術や応用例が登場している。IT系大企業からベンチャーに至る情報処理関連部門において人工知能の導入に向けた動きが活発であることも、今回の企画立案の背景であろう。

今回の共同企画のテーマは「人工知能とは何か」である。いまさらと思われるかもしれないが、これだけ注目されている人工知能であるにもかかわらず、その定義はいまだに曖昧である。「人工知能とは^{☆1}」というタイトルの書籍が2016年5月に出版されたばかりであり、13名の人工知能研究者がそれぞれの人工知能論を展開している。人工知能に対する捉え方の多様性を実感することができる内容となっている。そこで、今回は、情報処理研究という広い視点で人工知能研究について考えてみるということになった。特集は3部構成となっている。まず第1部は本誌編集長・神戸大学大学院工学研究科・塚本昌彦先生との対談で

^{☆1} 人工知能学会(監修):人工知能とは,近代科学社(2016)。

ある。司会は公立ほこだて未来大学の角康之先生にて、1時間という短い時間であったが、多岐に渡る話題で盛り上がった。この対談は人工知能学会誌にも掲載される。なお、対談記事としてはページ数の問題で掲載できない話題も多く、それらの内容もほかの機会で開催できればと思う。第2部では人工知能研究と関連のある情報処理研究分野から11名の研究者に、各自の専門領域の動向について寄稿いただいた。そして、人工知能学会誌には同じ11名にそれぞれ「人工知能における人道とは?」というお題にて寄稿いただいている。ぜひ、人工知能学会誌もご一読いただきたい。そして、第3部では、ドワンゴ人工知能研

究所の山川宏氏による「汎用性の創発を脳に学ぶために」と題した、山川氏を中心とした研究コミュニティである全脳アーキテクチャ・イニシアティブでの研究について、そして東京大学・松尾豊先生による「人工知能と倫理」と題した人工知能における倫理に関する最近の議論について紹介する。

今回の共同企画をきっかけに両学会会員がそれぞれ両方の学会誌を手に取り、普段参加しない研究会への参加を通じた新たな研究交流が生まれるなど、連携することでの情報処理研究全般の活性化が加速すると幸いである。

(2016年8月8日)

連動記事のお知らせ

□人工知能学会「人工知能」2016年9月号

今年創立30周年を迎える人工知能学会では会誌「人工知能」を隔月で発行しています。本号では本誌「情報処理」と連動した内容となっております。(2016年9月15日本誌同日発行)

□情報処理学会：デジタルプラクティス28号「人工知能の実践的活用」

情報処理学会デジタルプラクティスは、世の中の多様な取り組みに関して、現場の創意工夫、技術の新しい利用法、経験から得られる教訓を論文にして社会全体で共有し再利用することを目指した実務家向けの論文誌です。28号には、人工知能が世の中で実際にどう使われているのか、その実態や方向性を示す論文やインタビュー記事が集まっていますので、ぜひ一読ください。(2016年10月15日公開 <http://www.ipsj.or.jp/dp/dp-index.html>)

<招待論文>

- ・人間共生ロボット"EMIEW2"の対話型物体情報検索—実環境内の物体への自動タグ付けシステムの実践—
- ・大規模テレビ視聴データによる番組視聴分析
- ・テキスト含意認識による分類軸発見と分類の自動化—多様なチャンネルからの顧客の意見分析による実践—
- ・機械学習のビジネス適用事例紹介—電話オペレータ支援と保険支払査定の実例から—
- ・特許調査業務を改善する特許読解支援システム—特許情報と技術者を近づけるための技術—
- ・大規模トラフィックを処理する記事推薦サービスへの機械学習の応用事例

<インタビュー>

- ・静岡大学 竹林洋一氏 インタビュー：人工知能の実践的活用